

ほうれんそう

ほうれんそうには「東洋種」と「西洋種」があります。東洋種は葉の切れ込みが深くやわらかくて甘味があり、西洋種は葉が丸くて厚みがあり病害虫に強いのが特徴です。現在はこの2つを掛け合わせ、それぞれの長所を併せ持った品種「交配種」が出回っています。

9月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

作型

高温ほどとう立ちするので、種まきの時期を選ぶ。酸性土壌を嫌うので、石灰を必ず施用する。適期に間引くと、根張りが良くなり大株となる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋まき									○ ○ ○	■ ■ ■			強力オーライ、メガトン、ソロモン、パレード

○：種まき ■■：収穫

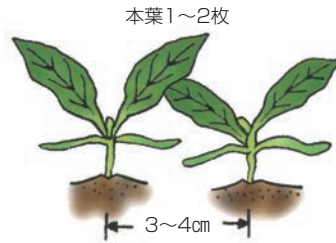
畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	20kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
油粕	40kg
畝立時施用	

- ・4条まき：畝幅120cm
- ・幅15cm、深さ2～3cmのまき溝を作り、播種する。
- ・覆土後、軽く鎮圧する。(ネーキッド種子を利用する場合)
- ・播種間隔2～3cm(厚まきしない)

間引き・追肥

- ・本葉1～2枚時：3～4cm間隔に間引く。
- ・本葉3～4枚時：株間5～6cm間隔に間引き、野菜専用肥料5kg/aを施用する



トンネル被覆

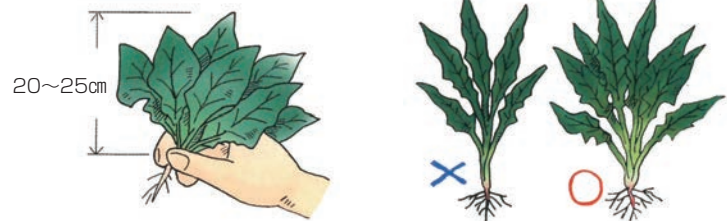
- ・12月以降は防寒と品質向上のためビニールトンネル被覆により保温を行う。

防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
根腐病	連作を避け、排水をよくする	バスアミド微粒剤(20～30kg/10a) 播種21日前まで1回
苗立枯病	連作を避け、排水をよくする	タチガレン液剤(500～1000倍) 播種直後1回
アブラムシ	窒素肥料を多量に散布しない 防虫シートを使用する	スミチオン乳剤(1000～2000倍) 21日前まで2回以内

収穫

- ・草丈15cm以上、本葉6～8枚になれば収穫する。
- ・大きくなった株から間引きするように収穫する。
- ・秋まき：50～60日



裏面は雑草図鑑 シロザ・ツメクサを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.317 平成29年9月13日発行

雑草図鑑

シロザ・ツメクサ

9月の農作業

シロザ

畑地、庭、空き地などに生育する1年草で、窒素の多い場所を好み群生する。茎は太く丈夫で堅く、高さは60～150cm程になる。葉は互生し、三角形卵形で先がとがり、縁に不整の鋸歯がある。芽や新しい葉、葉の裏面に白い粉が多数ついている。8月～10月に茎先や葉腋に穂状に緑色の花が密集して付く。また、シロザの一変種であるアカザは、葉の形など外形上の違いはほとんどないが、新しい葉、茎に鮮やかな紅紫色の粉がついている。アカザは個体数が少なく、畑地に生えるのはシロザが多い。



畑で群生するシロザ

防除のポイント

播種後に土壌処理型除草剤を散布することで防除できるが、発生後は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード（作物によって使用方法が異なるため要確認）を散布する。種子の寿命が長いので、残存雑草を結実前に刈り取ることが大切。



シロザ(生育初期)



シロザ(生育後期)

ツメクサ

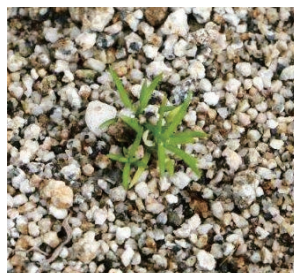
庭、畑地、道端などに生育する1年草または越年草で、道端のコンクリートの割れ目などからも生え、地面に張り付いたようにして生育している。茎は根元で分枝し、地表を這う。値がさ5～15cmで、葉は対生し線形で緑色、ごく小さい。4～5月に茎先や葉腋から花柄を伸ばしその先に小さな白い花をつける。小型だが発生量が多く、しばしば地面をおおうことがある。種子で繁殖するが、発生の深度は2～3cmよりも浅いところからが多い。鳥の爪に似ていることからツメクサという。



刈取後の田んぼで生育するツメクサ

防除のポイント

年内や春先の中耕の効果も高いが、深度が浅いので発生前に土壌処理型除草剤を散布することで発生を防ぐ。発生後に生育した場合は、移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード（作物によって使用方法が異なるため要確認）を散布する。



ツメクサ(生育初期)



ツメクサ(生育後期)

裏面はほうれんそうを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.317 平成29年9月13日発行